

25 空中拍手

目的：リフレッシュ・モチベート・緊張を和らげる

時間：3分程度

準備：ボール

人数：20～数百人

場所：体育館・講堂・屋外

会場全体の雰囲気を盛り上げる

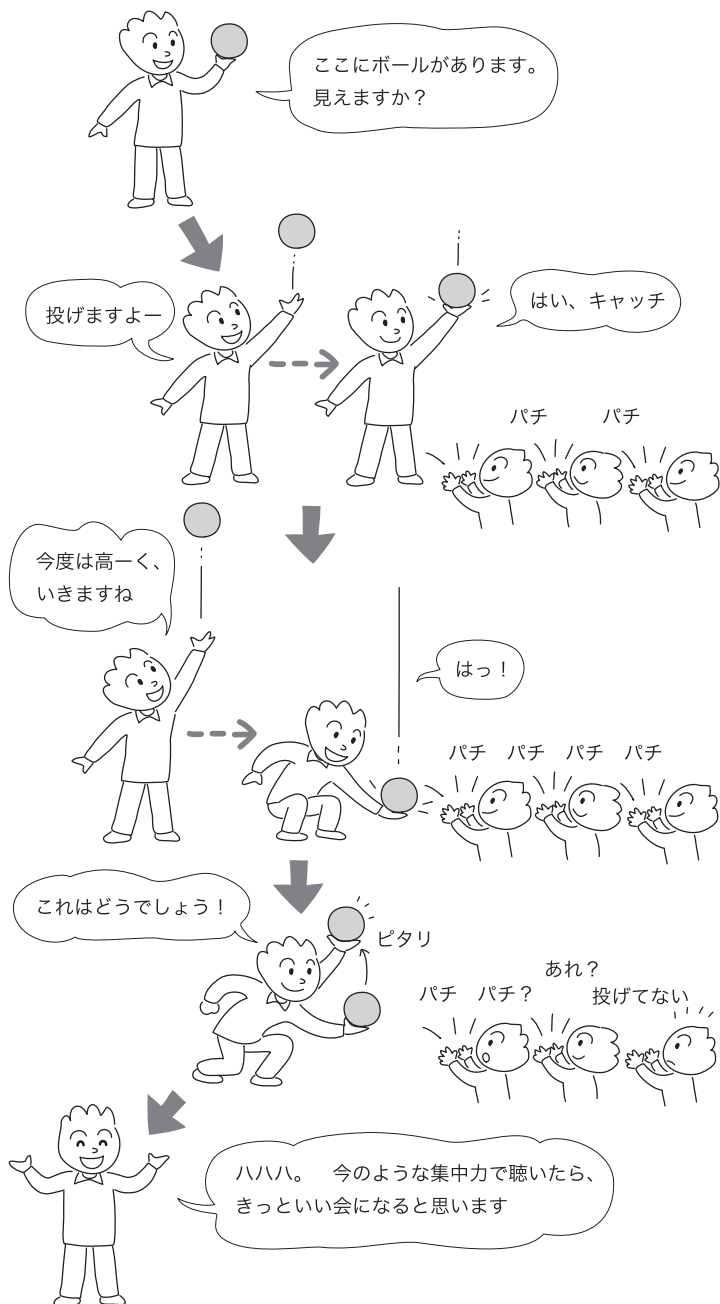
「空中拍手」は大人数が集まったときに活用できるアイスブレイクです。人数が多いと、それなりに場の一体感や集中力を保つ必要が出てくることがあります。講演会や演奏会、落語会などの前に、「拍手の練習」と称して行うこともあります。

「空中拍手」の進め方

①「みなさん、こんにちは。今日の○○会を始める前に、少し拍手の練習をしようと思います。聴衆、つまり聞き手が『いい拍手』をできると、会が盛り上がります。拍手のコツは、『短く・速く』です。だーらだーら、パーチパーチと拍手するのではなく、パチパチパチパチパチ！！ってやるのがポイントです。じゃあ、ちょっとやってみましょう。拍手！」と言って、みんなに拍手をしてもらう。

②「なかなかうまいですねー。今日のみなさんは、すばらしい聴衆です。

1つ目のコツが『短く・速く』だとしたら、もう1つのコツは、『タイミングよく拍手すること』なんですね。今度はこのタイミングの練習をします。ここにボールがあります。見えますか？」と言って、ボールを見せる。



- ③「このボールをこうやって上に投げます」と投げて、「はい。戻りました。この間、つまり私の手から離れている間、拍手をしてください。いいですか？ 投げますよー」と確認して、ゆっくりボールを上投げて、3秒ぐらいかけてキャッチする。
- ④「はい、素晴らしい拍手です。もう1回、今度は高ーく、いきますね」と、今度はより高くボールを投げて、膝をまげて地面すれすれのところでキャッチする。
- ⑤「はい。素晴らしいです。それでは、これはどうでしょう！」と言って、オーバーアクションぎみにボールを思いつき高く投げる振りをして……投げない。何人かが、つい、つられて、拍手をしてしまう。
- ⑥「あはは、冗談でした」などとみんなて笑い、「今のような集中力で、みなさんが今日の講演（演奏）を聴いたら、きっといい会になると思います。これは素晴らしい！と思ったら、タイミングをみて、ぜひキレのある拍手をしてください。では、会を始めましょう」と言って、開始を促す。

ライトをブレイクしませんように

人数が多い場面では、会場にいる全員で、一緒に笑える時間があるといいな、といつも思っています。そのためには、共通の体験をするのがいちばん。みんなでやって、うまくいったり、ダメされたりして、大笑いできれば、緊張はほぐれ、場があたたまります。

お笑い芸人は、自分たちで細かな拍手をしながら登場し、冒頭の「ボケ」で一気に会場をつかんでいく。そういう「つかみ」の部分があって初めて、漫才やコントの「本題」に入り込めるんだなあと勉強になります。

大人数の集会がありましたら、ぜひ、このアイスブレイクをお試しください。ただし、ボールを投げるとき、くれぐれも上方向に気をつけて。アイスではなくてライトをブレイクしてしまっては大変ですので。